

2018-5-20

“街道テクテク中山道” (STF 関連) No. 9

参加者：芦沢拓也、碓貴臣、黛政男、太田哲夫、後藤幸子、染谷みどり、政芳一、矢崎文彦、高野泰三郎、三木和幸、木村芳一

行程：本庄→新町 8.9km

本庄駅前→田村本陣門(本庄宿の北本陣である田村本陣の門)→市立歴史民俗資料館(旧本庄警察署、洋風公共建造物)→旧本庄商業銀行煉瓦倉庫(本庄商業銀行の担保繭の倉庫)→安養院→金鑽神社(かなさな、本庄の総鎮守、城主小笠原氏が建立、御神木クスノキは樹齢 400 年程度、他にケヤキ、イチョウなどの老樹あり)→唐鈴神社(遣唐使が帰国の折に玄宗皇帝より渡海安全のために授かった金鈴を祀る)→諏訪神社→二柱神社→浅間神社(浅間山古墳の塚上に祀られる)→泪橋跡(諸大名参勤通行時に助郷の苦役を強いられた農民が泪を流した)→金久保(金窪)八幡神社(八幡宮を遷座、金窪村の鎮守、拝殿の天井画は狩野派の絵師・祥雲斎俊信によるもの)→勝場の一里塚跡→大光寺(本庄側に設置された見透燈籠が移設されている)→神流川(かんながわ、両岸に復元見透燈籠が設けられている)→神流川古戦場跡碑→八坂神社(往時鳥居脇にあった大樹柳にちなむ芭蕉句碑)→浄泉寺(阿弥陀如来、樹齢 400 年の大銀杏)→於菊稲荷神社(美貌の飯盛於菊は、患った不治の病を稲荷に祈願して直し、稲荷神社の巫女になった)→本庄駅→熊谷駅下車、居酒屋で反省会

- ・下に示すように、本庄駅構内で全員集合写真を撮った。
- ・多少日差しは強かったが、気温はほどほどであり歩き日和であった。日本橋から新町までほとんど平坦な道であり、歩行距離は 98km に達した。
- ・本庄市については理解不足であった。歴史民俗資料館(写真参照)を見学すると、本庄市で発掘された縄文、弥生時代の土器、古墳時代の埴輪等が数多く展示されており、また明治時代には繭の生産高が日本一となって繁栄したようである。特に銀行は繭を担保として貸付を行ったためにその繭の保管用倉庫(例えば、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫)を併設していた。また利根川の水運を使用して大いに賑わい、本庄宿の宿内宿数は 1212 軒で、中山道随一であったという。さらに本庄市内には古い蔵が数多く残り、旧中山道沿いにもいくつか見られた。
- ・神流川は武蔵(埼玉県)と上野(群馬県)の国境にある。英泉は神流川渡し場風景を描き、その渡し場には本庄側から中洲までは板橋、中洲から新町側は舟渡しがあり、遠くには妙義山、榛名山、赤城山が見渡せ、実にのどかな風景である。しかし現在の神流川橋は国道 17 号となり、車の往来が非常に激しい状態にあった。
- ・沿道には数多くの神社仏閣があり、非常に立派な建屋が建てられ、また境内にはクスノキ、イチョウなどの何百年も経過した大きな木が見られた。これだけの神社仏閣を維持するために現在でも檀家、氏子の寄進はかなり多いものと思われる。
- ・新町には適当な居酒屋はなく、熊谷駅に戻って政さん紹介の店で反省会を行った。大変

美味しい料理を低額で味わえた。



本庄駅構内



歴史民俗資料館